

## エピファネイア

マタイ2章1-12節

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で、決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

### 説教

東方の学者たちも、エルサレムの宮殿に住む王者も、ベツレヘムの羊飼いたちも、同じしるし（星）を見ていました。そして、東方の学者たちはメシア

を礼拝しに遠方からやってきました。エルサレムの宮殿に住むヘロデ王は東方の学者たちからメシア誕生の情報を聞きメシア殺害計画（マタ2:16）を実行しました。ベツレヘムの羊飼いたちは天使からメシア情報を聞き、さっそく現場に確かめにいき礼拝しました。（ルカ2:8-20）

同じようにメシア誕生情報を受け取っても、信仰の有り無しで、礼拝する、殺害計画を実施する、不思議に思うと対応はまったく違っています。

> 震源・震度に関する情報

令和 2年 1月 3日 03時28分 気象庁発表

3日03時24分ころ、地震がありました。震源地は、千葉県東方沖（北緯35.8度、東経141.2度）で、震源の深さは約30km、地震の規模（マグニチュード）は5.9と推定されます。この地震による津波の心配はありません。この地震について、緊急地震速報を発表しています。この地震により観測された最大震度は4です。（気象庁ホームページから引用）

この地震による影響はわたしの住んでいる地方では震度2でした。たまたま起きていたわたしは地震だと感じた瞬間にテレビで情報を確認し、短く祈りしばらくしてテレビを消しました。そして今のいままで忘れていました。朝の3時半の出来事なので寝ていたら気づかなかったと思います。起きていて地震には気づきましたが被害がなさそうだと思い込み、それから地震のことは忘れていました。

イエスさまの誕生は天使のお告げ（ルカ福音書の羊飼い）と星のしるし（東方学者たち）にあったと聖書は証言しています。信仰の有り無しで人びとの対応は大きく違いました。

かりにいまイエスさまの再臨があったとします。わたしはその「しるし」を感じ取ることができるでしょうか。再臨の事実が確認出来たらどう対応をするのでしょうか。1月3日の早朝の地震のときの自分自身の反応の鈍さから、おおいに反省しなければならないと思います。

イエスさまの公現（エピファネイア）をわたしたちは聖書の物語として知っ

ています。極端な言い方をすれば、聖書からの情報としてしか知らないという事でもあります。その聖書情報をどう自分自身が受け止めるかは信仰の有り無し、聖書解釈の違いなどでさまざまとなります。ヘロデ王はイエスさまを信仰していないことはあきらかですが、反応はすばやいものでした。羊飼いたちから事の顛末を知らされた人々は「不思議」と思っただけでした。1月3日の地震に対するわたしの反応は「顛末を知らされた人々」と同じようなものです。わたしは地震があったと「思っただけ」だけでした。

毎週の礼拝は信仰を「かたち」としてあらわすものだともいえます。でも「かたち」だけで信仰とはいえません。信仰している「ふり」をしているだけかもしれません。新年を迎えて気持ち新たに礼拝に臨みたいとおもいます。

-----